

事例2 クールシティ・堺（大阪府堺市）

概要

世界遺産の登録を目指す^{もす}百舌鳥古墳群や、茶の湯等の多くの伝統と文化を有する堺市は、臨海部に工場地帯を抱え、ソーラー発電パネル製造やリサイクル発電等、様々な先進的環境産業が集積している。2009年には、環境モデル都市に選定され、温室効果ガスの削減と今後の具体的取り組みに関する「堺市 環境モデル都市行動計画」を策定した。「産業構造の転換」、「都市構造の変革」、「環境文化の創造」の3つの戦略を基本視点に、産学官民一体となって、「快適な暮らし」と「まちの賑わい」が持続する「クールシティ・堺」の実現を目指している。

テーマ	「産業構造の転換」「都市構造の変革」「環境文化の創造」による低炭素都市づくり
主体・キーパーソン	堺市環境局環境都市推進室
手法・技術	省エネ技術や新エネルギーの導入 LRTの導入や自転車利用環境の整備 長期優良住宅の普及環境と共生した快適な住環境の創造

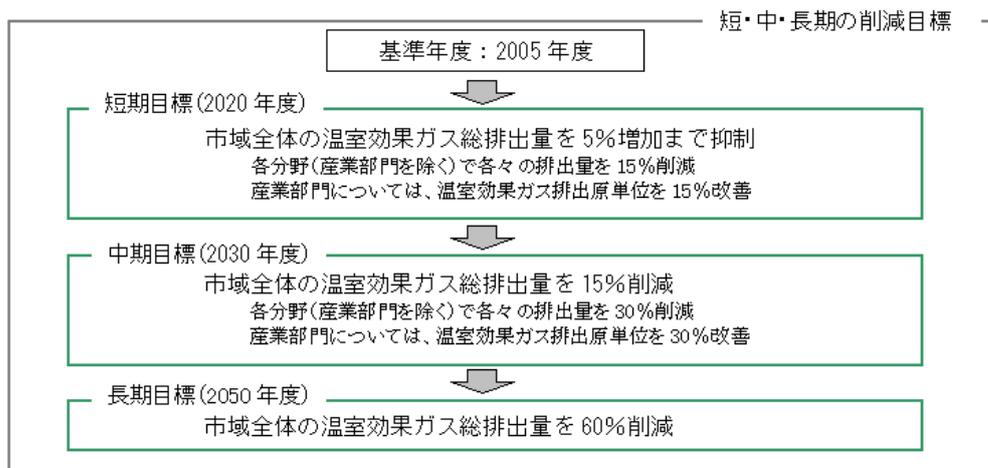
背景

2006年4月に日本で15番目、関西で4番目の政令指定都市となった堺市は、人口約83.5万人、総面積150km²の産業都市である。温室効果ガス総排出量に占める産業部門の割合が約6割と全国平均より2割高く、さらに、民生部門での排出量は増加傾向にある。

堺市は、2009年1月に内閣によって環境モデル都市に選定された。これを受け、2009年3月に「堺・クールシティ宣言」を内外に発表し、環境モデル都市行動計画における温室効果ガス削減目標の達成を目指している。

取り組みの内容

環境モデル都市行動計画では、温室効果ガスを2020年度には5%の増加にまで抑制し、2030年度には15%、2050年度には60%（2005年比）削減するという、短・中・長期3段階の削減目標を掲げている。市民、企業、大学等研究機関と一致協力し、「快適な暮らし」と「まちの賑わい」が持続する低炭素都市『クールシティ・堺』の実現を目指している。



短・中・長期の削減目標

(出典：堺市 環境モデル都市行動計画)

中長期削減目標達成のために、次のような基本的な視点を設定している。

(1) 産業構造の転換

各種の省エネ技術や新エネルギーの導入等により、エネルギー資源を大量消費する現在の産業構造を低炭素型へと転換する。民生部門も含め、太陽光等の自然エネルギーの活用や高効率エネルギー利用機器の普及等を図る。

具体的には、臨海部での新設コンビナートにおいて、世界最大級の燃料電池、全工場LED照明等導入といった先導的な取り組みを実現し、世界標準の環境先進型コンビナートとして、周辺地域及び国内外へ向けて情報発信を行っていく。そして、市と事業所の間で「(仮称)クールシティ・堺サポート協定」を締結したり、省エネ・省資源に寄与する技術開発や既存最新技術の導入を促進するために「(仮称)さかい低炭素化技術戦略センター」を設置したりすることで、省エネ推進・新エネ導入モデルの構築を目指している。

(2) 都市構造の変革

LRTの導入や自転車利用環境の整備等により、自動車中心の交通体系を公共交通中心の交通体系に転換することで都市の構造改革を進める。

臨海部と都心地域をつなぐ東西方向の交通軸については、LRTを整備する。そしてその軸を中心に、バスや鉄道の連携を強化し、公共交通の利用促進や自転車や徒歩での移動が便利なまちづくりを進めることで自動車交通の適正化を図る。同時に、環境負荷の少ない都市環境を創り出していく。さらに、堺市は、「自転車のまち」として、自転車を使う市民にとって安全で便利な環境を整備している。例えば、市民や来訪者が自由に利用できる「コミュニティサイクルシステム」を導入したり、市域の自転車道ネットワークの形成に向けて自転車走行環境を整備したりと、自転車の更なる利用拡大を図ることで、低炭素型の都市交通につなげようとしている。

(3) 環境文化の創造

長期優良住宅の普及等、環境と共生した快適な住環境を創造する。市民等の自発的な取り組みの拡大に向けた環境意識の向上や環境に配慮した行動を促進するため、環境教育・啓発の推進と仕組みづくりを行う。

具体的には、2030年までに10万世帯（堺市の3軒に1軒）への太陽光発電の普及を目指す「まちなかソーラー発電所」を展開したり、町なかに緑や水辺といった自然を取り込むための「SAKAI グリーンプロジェクト」を実施したりすることで低炭素型のまちづくりを進めていく。さらには、低炭素社会に向けた取り組みへの顕著な功績を市が表彰する制度の制定や、低炭素なまちづくりに向けた柔軟なアイデアを募集する「(仮称) 環境街づくり学生アイデアバンク」の設立によって、環境共生に対する市民意識を高めていくような取り組みも行っていく。



「クールシティ・堺」
イメージイラスト
(出典：堺市 HP)

成果・成功要因

初年度の2009年度の取り組みは、当初の予定どおり実施できなかった事業もあるものの、大半は順調に進めることができた。

特に、「まちなかソーラー発電所」の実現に向けた小中学校を始めとする公共施設や住宅への太陽光発電の導入促進については、想定以上の成果をあげた。2009年度には5校の小学校（2010年度は12校を予定）やその他公共施設で計166kWを設置し、市内住宅においては1,200件（当初目標1,000件）の導入が達成された。それによる経済効果は約28億円に上る。

温室効果ガスの削減は、産業部門で大規模太陽光発電所の建設工事に着手が始まり、削

減効果が 4,060t-CO₂に達している。民生部門では、戸建住宅 1,200 件に太陽光発電装置を設置し、1,547t-CO₂の削減が実現された。

地域活力創出の取り組みとして、市内 22 金融機関で、金融商品の提供等により環境配慮の取り組みの促進を支援する「SAKAI エコ・ファイナンスサポーターズ倶楽部」が設立された。

東吉野村との「都市と農村山の広域連携」により、東吉野村山の学校協議会の設立に参画し、約 400 人の自然エコツアー体験等や村の資源を使ったエコ商品の開発等を行った。

堺版コミュニティサイクルシステム（450 台）の導入に伴い、サイクルポートの駅周辺では違法駐輪問題が解消され、歩きやすいまちづくりに貢献した。

また、臨海部の廃棄物処分場跡地での共生の森づくりのための植樹イベントを行い、2,000 人の参加を得て、1 万本の植樹を行った。

[参考文献・資料]

- ・堺市役所「環境モデル都市・堺」

http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_kanto/model/md_top.html

- ・チャレンジ 25 キャンペーン「環境モデル都市・堺」

<http://www.challenge25.go.jp/activity/model/sakai.html>

- ・平成 21 年度 環境モデル都市フォローアップ（施策の進捗状況等）

<http://ecomodelproject.go.jp/upload/100519AG/03sakai.pdf>